

オフィスに子どもの元気な声が響く「世界一楽しい会社」。



(株)けんと放送
経営管理部 部長 石田 直之 さん

こんな取組を
推進しています!

- 1 男性社員の育児休業取得推進
上司が育児休業を積極的に取得、若い社員のモチベーションアップ
- 2 有給休暇に上乗せ「育児目的休暇」導入
新たな休暇制度と「家族手当」新設で子育て世帯をサポート
- 3 各種制度の積極的活用
県の助成金等も活用、働きやすい職場づくりを推進

当社は1996年に放送を開始したFMラジオ局を軸に、新潟駅南のプラカ3でのレンタルオフィス・貸会議室事業、企画・デザインやイベントの企画・運営、広告代理店業務などの多彩な事業を展開しています。社員がみんな若いことから、会社でありながら組織自体はフラットでカジュアル。オフィスに子どもを連れてきて仕事をする社員もいます。

育児支援としては、短時間勤務制度や時差出勤を導入しており、長時間労働対策としてはノー残業デーを実施しています。女性社員の産休・育休もフルに活用されており、男性社員では2018年、社歴の長い佐藤が2週間の育児休業を取りました。上の世代がこうした休みを積極的に活用することで、下の世代も育児参加しやすくなるのではと期待しています。

また、男女関係なく育児休暇取得をより推進しようと、今期から「育児目的休暇」を導入しました。これは子どもが小学校入学までの好きな時期に目的に合わせて取得できる休み。子ども1人につき年5日、2人以上は10日を上限に、年次有

給休暇とは別に上乗せする形で設定しました。こうした手厚い制度は子どものいる社員に好評です。

2018年夏からは「家族手当」の支給も始めました。子どもがいる社員に支給される手当です。私は娘が3人いるので、正直ありがたい(笑)。私のための制度かと思いました。

一方の介護支援は、短時間勤務制度や時差出勤は導入済みですが、まだ利用した社員はいません。これからの課題だと思います。

社長の逸見は「楽しく働くことは、仕事と家庭の両立無しにあり得ない。奥さんを助け、子どもにとって良い家庭環境を作ること、それが男性社員の活力となり、本当の意味で世界一楽しい会社は作られる」という考えを持っており、こうした考えが我々の仕事のモチベーションにつながっています。

最近では、「世界一楽しい会社を創る」という企業理念に共感してくれる若い学生さんが増えているのは嬉しいですね。今後も各種制度や助成金を上手に活用し、より働きやすい組織を目指していきます。

活用できるよい制度があれば、2人目3人目も考えますね。

イクメン社員
佐藤 善則 さん(39歳)

妻が妊娠した時に県の助成金のチラシを見せながら「あなたが育児休業を取ればこんな補助金が出るよ」と教えられました。フリーランスで仕事をしている妻は産後すぐ復帰したがっていたこと、僕が関わっていた仕事が一段落するタイミングもあり、長女が生まれてすぐに2週間の育児休業を取りました。就業規則が変わってから男性社員で育児休業を取ったのは初めてのことです。

もともと風呂掃除やトイレ掃除は僕の担当で、そこにオムツやお風呂などの世話が加わって。娘はとてもいい子で思ったより大変ではなかったです。僕も母乳が出ればもっと関わられるのに、と思うくらい。子育ては楽しい。そう思うきっかけは2週間の育児休業にあったと思います。これから子どもを持つ後輩たちにも、育児休業を取るよう勧めたいですね。

今も妻が仕事の際は僕が抱っこ紐で職場に連れて行きます。あやしてくれる同僚もいて助かっています。自分に子どもができて、人の子を見て可愛いと思うようになりました(笑)。



 **KENTO**
Broadcasting inc.

●所在地:新潟市 ●業種:FM放送業ほか ●従業員:15人

【業務内容】コミュニティFM放送を柱に、新世代のライフスタイルマガジンCUT IN等の発行、駅南貸会議室 KENTO、Hub Station KENTO等の運営、企画・デザイン、広告代理業務を複合的に展開している。



私たちはイクメン応援宣言企業です!

新潟県では、男性労働者が育児に参加しやすい職場環境づくりに積極的に取り組む企業を「イクメン応援宣言企業」として登録しています。

もっと詳しく知りたい方は

にいがたイクメン応援宣言



<https://niigata-ikumen.jp>